



Team石川



小中一貫CSだより第75号 令和4年6月24日 文責：對馬 匠
めざす子ども像(15歳の姿)：石川小・中学校や地域に誇りと感謝をもつ生徒

ワークショップ『絆ホールの活用について』 小・中学校等複合施設 整備事業情報 No. 3

弘前市教育委員会は8日、同市の石川小学校(對馬匠校長)と石川中学校(木村隆校長)で、石川小・中学校等複合施設整備事業のワークショップを開催した。参加した石川小4、5年生55人と石川中1～3年生59人は、2024年夏に完成予定の新校舎の活用方法について意見を出し合い、新校舎に期待を膨らませた。(稲葉智絵)

新校舎活用法に意見



大階段に提案次々
石川小・中学校 完成へ期待膨らませ

石川小・中学校新校舎の1階昇降口と2階のホールをつなぐ大階段(絆ホール)の活用方法を考えてもらう。新校舎で学ぶ予定の児童生徒を代表して、1日予定していた実施。1日予定していた実施。1日予定していた実施。

昨年より延期が続いておりましたワークショップが、6月3日(金)に石川小学校・中学校を会場に開催することができました。

冬休み前には、弘前市教育委員会学校整備の担当者より、本ワークショップの内容と絆ホール(昇降口と2階をつなぐ大きな階段)活用のアイデア募集のお話を伺いました。今回話し合った以下の4テーマは、休み明けに集められたアイデアを集計した結果をもとに設定されました。

- (活用案1) 本棚、勉強道具を置く
- (活用案2) 全校朝会等の集会の開催
- (活用案3) 創作・芸術での活用
(作品の展示や、階段蹴上げに絵を描く)
- (活用案4) 階段中央部分への手すりの設置

アイデアについて話し合った後は、各グループ毎に発表を行いました。活動をサポートくださいました、学校整備課や設計業務に



陸奥新報
2022年
6月20日(月)
掲載

ワークショップについて意見を出し合った。その後の発表では、「みんなのアイデアが盛り込まれるようにしてほしい」という声もあつた。また、「自分たちで考えたアイデアが採用されることを楽しみにしている」という声もあつた。また、「自分たちで考えたアイデアが採用されることを楽しみにしている」という声もあつた。

携わった設計共同体(教育施設研究所・三上設計)の方々も思わず頷くような発表もあり、令和6年夏の新校舎使用開始に向けて、児童生徒の期待がますます高まった活動となりました。(6年生の実施は今後予定します。)

小中連携の活動 続々と 5/30(月) 小中合同ボランティア

児童会計画委員会と生徒会執行部が合同でボランティア活動を行いました。



放課後、小学校の校門をスタートし、国道7号線沿いを進み中学校グラウンドまで戻ってくるコースを一巡しました。参加した児童生徒は、予想したよりも落ちていたゴミは少なく少し安心したようでした。

6/17(金) 小中合同健康マラソン

新型コロナウイルス感染症の影響により、この2年間行われなかった合同健康マラソンを実施しました。

生徒の発案をもとに開始されたという、当時の経緯を改めて確認し、健康作りはもちろんのこと、生徒のリーダー性の育成と児童生徒の交流を深める場とするというねらいを意識した再スタートとなりました。



第1回目の今回は、久しぶりに行うということで、中学校体育委員会によるオリエンテーションを行いました。今後は、9月まで月に1度程度実施する予定です。

各活動の様子



中学校3年生
修学旅行発表会

小学校5年生
田植え



弘前地区
中体連
夏季大会



徐々に徐々に状況が落ち着き、予定通り実施できる活動が増えてきています。今後も、感染拡大防止にご協力ください。



中学校全校道徳（6年生参加）
『シッティングバレーボール
パラアスリート 田澤 隼 選手を迎えて』

小学校 交通安全教室

